

真福寺

大人になるということ 大人に育てるということ

新年、明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。

14日間の冬休みを終えて、子どもたちが元気に登校してきました。いつもの「おはようございます」はもちろんですが、「おめでとうございます」「今年もよろしくお願いいたします」の言葉が何度も聞かれ、新たな気持ちで「今年も頑張るぞ!」という意気込みが伝わってきます。

学校生活は、新しい学年に向けての3ヶ月。一人ひとりが自分の良さと可能性を見出し、年間の総仕上げ、そして、進級・進学に備える時期となります。残り少ない一日一日を大切にし、有意義に過ごしてほしいと願っています。

1月13日は成人の日です。民法の改正によって2022年4月1日以降から、成年年齢が18歳に変更されました。18歳は学年でいうと高校3年生にあたり、大学受験へ向けて準備をしたり、卒業後に働くために就職活動をしたりと、多くの新成人が忙しくなる時期なので、川崎市では20歳で「二十歳を祝うつどい」を開催しています。さて、大人と子どもはどう違うのでしょうか。自分の身の周りのことが自分でできる、経済的にも独立している、人に頼らず自分で判断してその責任をとることができるなど、いろいろ考えることができます。1年生はあと11年間、6年生はあと6年間で18歳になりますが、成人した次の日からいきなり大人になるわけではありません。子どものときのいろいろな経験や、その経験からの学びが、少しずつ子どもを大人にしていくのです。経験の中には、嬉しいことや楽しいことだけでなく、嫌なことや苦しいこと、悔しいことなどもあるかもしれません。けれどもその一つ一つが、子どもを大人に成長させていくのです。

私たち大人は、そのような経験をしている子どもと向かい合うとき、「手を貸す」から「見守る」というように少しずつ離れていくことが大切ではないでしょうか。幼いうちは、子どもの代わりに、相手に子どもの気持ちを伝えるなど、大人のかかわりがどうしても必要なことがたくさんあります。けれども、成長して自分の気持ちを自分で伝えられるようになってきたら、大人の出番は減ってきてよいのではないかと思います。親から見れば子どもはいくつになっても大切な子どもです。楽しく生活できるように助けてあげたいと思うのは当然です。でも、いつまでも親が子どもを守ってあげることはできません。大切な子どもが将来、一人で自分らしく生きていけるような力を育てることが親の愛情だと思います。成人の日には、大人になるということについて、是非親子で話をしてみてください。

本年も子どもたちのより良い成長のために、教職員一同、力を合わせて指導・支援していきたいと思っております。保護者の皆様、地域の方々、昨年同様、お力添えいただけますようよろしくお願いいたします。

校長 鈴木 みどり